

# がんばる羽咋創生総合戦略

事前審査結果及び重点審査する施策  
全 5 施策



## 事前審査結果及び重点審査する施策

### 1. 審査結果

			事前審査結果
1	◎	取り組み内容の深化・発展	30
2	○	取組内容の継続	39
3	△	取組内容の見直し	12
4	×	取組の中止・終了	1
計			82

### 2. 重点審査する施策一覧

No.	施策NO.	基本目標	基本的施策名	重要業績評価指標(KPI)	担当課	総合評価 (案)
1	7	基本目標Ⅰ	1-(4) 新規就農者等に対する総合的な支援	①自然栽培・有機・エコ栽培者数	農林水産課	○
2	17	基本目標Ⅱ	1-(1) 観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	①千里浜、柴垣海岸でのイベント参加者数	商工観光課	◎
3	44	基本目標Ⅲ	4-(1) 総合的な学習能力の向上と支援	①小学校6年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査	学校教育課	◎
4	60	基本目標Ⅳ	3-(2) 住宅の安全強化の推進	①老朽空き家の応急処置等による改善件数	地域整備課	◎
5	71	基本目標Ⅴ	1-(2) 地域活力の維持と協働のまちづくりの推進	②若者、小中校生による羽咋創生事業の提案数	地域振興室	◎

第2期 羽咋創生事業 進捗管理シート

評価項目

◎ 取組内容の深化・発展

○ 取組内容の継続

△ 取組内容の見直し

× 取組の中止・終了

1	I 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(4)新規就農者等に対する総合的な支援	農林水産課

有識者会議による検証評価

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①自然栽培・有機・エコ栽培者数	100人	79人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	83人	87人	91人	95人	100人
実績値	82人	85人	63人	-	-
事業費予算額	3,320千円	3,500千円	5,000千円	-	-
事業費決算額	2,420千円	3,116千円	4,858千円	-	-
年度目標に対する達成率	98.8%	97.7%	69.2%	-	-
基準値に対する増減率	3.8%	7.6%	-20.3%	-	-
担当課評価	○	○	○		

評価の理由 新規に台湾への販促事業を行い、自然栽培の普及推進と消費拡大を図った。

PLAN R4年度の取組内容 自然栽培農産物のブランド化を推進し、就農に関する情報提供、助成を行うことで新規就農者を増加させる。

DO 事業スケジュール課題など(具体例:いつ、誰が、どこで、何を...)  
 ①自然栽培作物を利用した加工品開発を行う自然栽培農業者等への支援を行う。  
 ②小中学校、保育所、幼稚園の給食への自然栽培農産物の提供など、自然栽培に関するPRを行い、自然栽培作物の普及を推進する。  
 ③自然栽培農業者に対して、自立化に向けた指導を行う。  
 ④農業参入センターやJAによる営農指導を引き続き行う。  
 ⑤就農を希望する人への情報提供や相談を行う。  
 ⑥ウィズコロナを見越したイベントの企画を検討する。

CHECK 3月末時点(1年間の振り返り及び効果検証)  
 販売への支援として、台湾での販促イベントを行った。  
 学校給食へ自然栽培作物の提供を行うとともに、7月から11月にかけて、邑知保育園をモデルと位置づけ、収穫した自然栽培野菜等の提供を行い、自然栽培の普及に取り組んだ。県内外の人へ自然栽培マニュアルを28件送付し、自然栽培のPRを行うことが出来た。

ACTION 対応方向(上記を踏まえての今後の方向性)  
 イベント等を通じて羽咋市の情報や就農支援施策について伝えるよう取り組んでいく。  
 国内外へ自然栽培農産物の販促を行うことで消費拡大を図り、自然栽培の規模拡大と普及推進に努める。

評価	総数	意見
◎	3	①栽培者が減った理由を聞きたい。羽咋の魅力の1つなので支援の充実を継続してほしい。 ②ふるさと納税やイベントなどで「羽咋市と言えば自然栽培農業」というくらいまでPRを進めてほしい。移住者やシルバー人材センターの登録者への自然栽培などに従事してもらうように働きかけてもよいと思う。
○	18	①自然栽培の作物は、おいしいし、体にもよいが価格が高いため買いにくい面がある。価格を抑えられる方法を指導できるとよいと思う。 ②マーケットの開拓や需要の喚起につながるPR、支援を要望します。 ③農業大学校等へのPRはできないか？ ④農業で生活していけるかどうか、不安材料である。故に生産物の販路についても手助けが必要である。 ⑤コウノトリの故郷、豊岡市が生産している「コウノトリ育むお米」のような取組を「トキ」放鳥に合わせて取り組んでみたらどうか。 ⑥休耕地が増加している。その実態をつかんでいるのか。 ⑦半農半○をすすめることが一時的には必要では。 ⑧前年度の実績値から22人も減少していますが、この点の言及がないのは残念です。減少した原因について、どのようなことがあったのでしょうか。 ⑨就農者の減少が一時的なものか分析が必要。成功している方の情報をSNS等で広めてほしい。 ⑩自然栽培ありきではどうか？まずは、農業に携わる人への営農指導が必要では？
△	0	
×	0	

第2期 羽咋創生事業 進捗管理シート

2	II 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(1) 観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	商工観光課

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

重要業績評価指標 (KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①千里浜、柴垣海岸でのイベント参加者数	5,000人	3,977人

  

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	4,200人	4,400人	4,600人	4,800人	5,000人
実績値	3,549人	5,025人	12,058人	-	-
事業費予算額	2,777千円	3,100千円	7,400千円	-	-
事業費決算額	2,515千円	3,015千円	5,565千円	-	-
年度目標に対する達成率	84.5%	114.2%	262.1%	-	-
基準値に対する増減率	-10.8%	26.4%	203.2%	-	-
担当課評価	○	○	◎		

評価	総数	意見
◎	19	<p>①SSTR以外にも千里浜の魅力を生かせるイベントは必要。</p> <p>②観光協会との連携。</p> <p>③知名度の高い千里浜の四季を通じたイベント等の開催に向けて毎年進化するよう幅を広げて下さい。</p> <p>④市民向けイベントを行っている団体への協力・補助はあるのか？年々深刻化している海岸減少に対する考え方は？県や国に対しての養浜状況がわからない。このまま何もしないと消滅してしまう。</p> <p>⑤SSTRの開催期間にはぎわっていると感じる。それ以外でのにぎわいの創出として新たな企画はできないか(冬の時期)</p> <p>⑥引き続き羽咋市の魅力発信イベントを実施し、交流人口の拡大、経済活性化に取り組んでもらいたい。</p> <p>⑦SSTRのイベント価値をさらに高め全国にPRし関連行事も充実させてほしい。</p> <p>⑧千里浜は羽咋の武器特にSSTRは大きなイベントになった。ポストSSTRも考えてほしい。</p> <p>⑨海岸でのイベントPRは多いに賛成です。ただし、世界的な視点から見て、自然環境へ自動車等の排気する車等が乗入れることについては一度検討してみる時期に来ている気がします。私の考えは、乗入れ禁止するのではなく、貴重な自然に対する保全のために乗入れる前に通行料をとってはどうか？という意見です。(バス1台1,000円、バイク100円地元民無料)羽咋市はもっと強気で自信をもってPRしていけば良いと思います。</p> <p>⑩たくさん来てくれるライダーが市内の観光地を周遊し、滞在時間が長くなるとよりよいと思う。地元の方による出店ブースなどを設けているようだが、おもてなしのカレーや汁物でいっぱいになってブースでは食べ物系は売れないとの声を聞いた。おもてなし自体は非常によいことだが、地元出店者にも利益が出るようにほどほどの量(おなかいっぱいにならない程度の・・・)にはできないものでしょうか。</p> <p>⑪柴垣海岸は景勝地長手島を中心にサーフィン、サップ、釣り等のマリンレジャーで若者が集っています。さらに長手島を恋人の聖地とする為に力を入れて頂きたいと思います。</p> <p>⑫着実に成果を上げており今後も一層の支援、発信を期待したい。</p> <p>⑬素通りの町から一服して楽しむ町にしてほしい。</p> <p>⑭SSTR以外でも毎年恒例となるような千里浜をうまく活用したイベントを企画してほしい。千里浜インターのところ新しいホテルができるなら、夜のイベント(野外ライブ等)も考えてみてはどうか。</p>
○	1	①コロナの行動制限が緩和されたことに伴うもので、どこまで取り組みの成果か分からない。
△	0	
×	0	

評価の理由	大幅に人数の増加を果たせたため。
PLAN R4年度の 取組内容	①体験型・滞在型観光メニューの開発・開発支援・情報発信を行う。 ②ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、開催支援方法を見直しつつ羽咋市の魅力発信イベントを実施し交流人口の拡大、市内経済活性化を図る。(SSTR開催支援事業)
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を ...)	①市内施設、提携している日本旅行、関係各課と連携し、より魅力と集客力のある体験型・滞在型観光コンテンツを開発・開発支援する。また、需要度の高いエリアや年齢層などターゲットを見定め効果的な情報発信と営業活動を行う。 ②開催規模拡大による開催方法の変化や感染症の発生状況に合わせ、おもてなし方法及び運営支援方法を検討。イベント期間中にとどまらない、参加者や関係者の市内回遊による経済効果を高める企画を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①SSTRを5月21日～29日と10月1日～2日の計2回10日間開催。羽咋市SSTR応援事業実行委員会としてライダーに対するおもてなし活動を行った。 ②おもてなし協力店利用者にステッカーを配布するなど今回からの新たな試みを取り入れよりよいライダーをおもてなしする環境を整え開催を支援した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての 今後の方向性)	①体験型・滞在型観光メニューの開発支援・情報発信を行う。 ②コロナウイルスによる行動規制などで減少した観光客数を、開催支援方法を見直しつつ羽咋市の魅力発信イベントを実施していくことで観光客数の回復、交流人口の拡大、市内経済活性化を図る。(SSTR開催支援事業)

第2期 羽咋創生事業 進捗管理シート

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

3	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(1)総合的な学習能力の向上と支援	学校教育課

有識者会議による検証評価

重要業績評価指標 (KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度			
①小学校6年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査	県平均5ポイント以上維持	5P			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5P	5P	5P	5P	5P
実績値	中止	国14P 算13P	国10P 算10P	-	-
事業費予算額	50千円	-	-	-	-
事業費決算額	50千円	0千円	0千円	-	-
年度目標に対する達成率	-	-	-	-	-
基準値に対する増減率	-	-	-	-	-
担当課評価	○	◎	◎		
評価の理由	目標値を大きく超えて達成。				
PLAN R4年度の 取組内容	①指導力を維持するためのミドルリーダー教員の育成及び新時代に対応した人材を育む学習支援。 ②各学校における特色ある教育活動の推進。 ③「HAKUISM」の推進。				
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を ...)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回 授業交流研修会3回)を開催し、指導力維持を図る。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を推進するため、「HAKUISM」などの校内研修を定期的に開催し、指導力向上、授業改善を目指していく。				
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、オンライン研修をはじめ市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回 授業交流研修3回 ICT活用研究会5回)を開催し、指導力維持に努めた。②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を更に推進するため、令和の学びのスタンダードである「HAKUISM」の推進に積極的に取り組み、効果的な基礎学力の定着に努めた。				
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての 今後の方向性)	①授業力と今日的な教育課題に対応する資質・能力を更に高めるため、引き続き効果的なけんしゅうを実施する。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた特色ある教育活動の推進。 ③R4年度に若手中堅のワーキンググループが作成した「ICT活用の指導指針」を教育現場の方針に加えると共に、今年度新規に導入する「AIドリル」を有効に活用する。				

評価	総数	意見
◎	18	①今の時代が求めている教育が方向性を大事にするとともに人格形成の場であることも大切にしてほしい。 ②小学校、中学校で高めた学力を地域の高校にもつなげるよう連携してほしい。 ③長期的な視点での人材育成に貢献している。更なる取組の深化に期待したい。 ④予算と決算がないため事業としての評価が難しいと感じました。 ⑤移住・定住支援から、結婚、出産、子育て支援「学び」のサポートも手厚いとなると子どもを産み育てるなら羽咋でと思う若者が増えるのではないのでしょうか。そんな切れ目のないサポート体制をわかりやすくどんどんPRしていったらいいと思う。 ⑥先生方の授業力の向上に向けた努力の結果が見える。今後も研修の充実を期待する。
○	2	①点数だけに執着しない方がいい。点数以外の能力を育てる試みはよいと思う。
△	1	①学力調査に対して過去問での過度な対策など、本来の目的とは違うように進められてはいないか。点数をノルマにすることで、現場が点数に執着するのは当たり前なので、このKPIを見直し、羽咋市が独自で取り組んでいる「HAKUIZUM」の活用状況や満足度などを指標にしてはどうか。
×	0	

第2期 羽咋創生事業 進捗管理シート

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

4	IV 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	(2)住宅の安全強化の推進	地域整備課

有識者会議による検証評価

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①老朽空き家の応急処置等による改善件数	50件(R2～R6年度累計)	7件

  

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	10件	20件(累計)	30件(累計)	40件(累計)	50件(累計)
実績値	9件	14件(累計)	30件(累計)	-	-
事業費予算額	600千円	600千円	300千円	-	-
事業費決算額	0千円	91千円	189千円	-	-
年度目標に対する達成率	90.0%	70.0%	100.0%	-	-
基準値に対する増減率	28.6%	100.0%	328.6%	-	-
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由 取り組むことにより老朽空家が改善されるため。

PLAN R4年度の取組内容 人口減少が進行する中で老朽空家が増加が見込まれることから、空家除却や応急処置等による、危険空家の減少により、市民が安全・安心に暮らせる地域づくりを行う。

DO 事業 スケジュール課題など(具体例:いつ、誰が、どこで、何を...)

定期的な巡回等により、老朽化が進んでいる空家については、助言、指導等による適正管理を実施する。また、町会との連携により、老朽空家の実態把握に努める。

CHECK 3月末時点(1年間の振り返り及び効果検証)

助言・指導等により1戸の空家が利活用、3戸の空家が解体された。また、老朽空家12戸に対して、助言・指導等を行った。

ACTION 対応方向(上記を踏まえての今後の方向性)

助言・指導等については一定の効果があることから、今後も引き続き実施し、安全安心に暮らせるまちづくりを推進する。

評価	総数	意見
◎	16	①荒廃した空き家を放置したままというのはよくないと思う。これから増えるのは、間違いないので、安全な町づくりの為にも対策が必要。 ②今後も空き家は増加していくので各町と協力して空き家の活用法について話し合う場を設定してはどうか。 ③老朽化した空き家対策は、社会問題化しているため、早急な対応を望む。 ④今現在、応急処置の必要な家庭はどれだけあるのか。 ⑤解体の代執行をする場合、事前に第3者から意見を聞く会議体が設置されているのでしょうか。 ⑥老朽空家の解体は、状況によっては市の予算で解体してほしい。又、空家の利用はせず、草刈りだけをしているのが一番だと思います。 ⑦着実に実績を上げているのはとても良い。なせ予算額が半減したのか。 ⑧各町会の困りごとに老朽空家問題が常に上位を占める。今後も助言・指導に積極的に取り組んでほしい。 ⑨実態を把握し、緊急性の高いところから対処してほしい。空き家バンクの登録を町ごとに進めていってほしい。
○	4	①抜本的に空き家をつくらない仕組み、制度を検討してほしい。 ②危険空家については、安全安心の確保のためにも継続した取り組みが必要。
△	0	
×	1	①撤去する。

第2期 羽咋創生事業 進捗管理シート

5	V 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(2) 地域活力の維持と協働のまちづくりの推進	地域振興室

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

重要業績評価指標 (KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②若者、小中学生による羽咋創生事業の提案数	5事業(R2～R6年度累計)	2事業
25事業		
20事業		
15事業		
10事業		
5事業		KPI
0事業		
	実績値	実績値
	令和2年度	令和3年度
	令和4年度	令和5年度
	令和6年度	
目標値	1事業	2事業(累計)
実績値	1事業	1事業(累計)
事業費予算額	20千円	200千円
事業費決算額	20千円	672千円
年度目標に対する達成率	100.0%	50.0%
基準値に対する増減率	-50.0%	-50.0%
担当課評価	◎	○

評価	総数	意見
◎	16	①小中学生が市の職員から市の情報を聞いたりアドバイスをしてもらったりして自分たちの活動につなげているニュースを新聞等で目にするがよいことだと思う。 ②直接、市中の小学校に積極的に足を運び、市の施策や取組等を紹介する機会を増やしてほしい。 ③長期的な視点での人材育成に寄与している。更なる取組の深化に期待したい。 ④よい取り組み。子どもの頃から前向きに地域課題と向き合う経験は郷土愛を深める。 ⑤小中学生が地域の事を学ぶことは将来のためにも良いことだと思う。小中学校と連携した取り組みも必要。 ⑥市内の学校に周知し、現場でもできる範囲で総合的な学習の時間や探求の時間などの学びのゴールとして、市に提案できるような機会を作ればよいと思う。課題を限定し、市民からの意見を広報誌などでQRコード形式で意見を募るなどすれば、より多様な意見が得られると思う。
○	5	①4事業は何を数えているのか不明。 ②外部デジタル人材の委嘱が予算、決算額に反映されているのでしょうか。そうであれば、本来のKPIから外れてしまうのではないかと感じました。本来の趣旨である「若者、小中学生」による提案を中心とした事業に期待します。
△	0	
×	0	

評価の理由	住民自治報告会で羽咋中・邑知中生徒のそれぞれからまちづくりの活性化につながる提案があり、外部デジタル人材による具体的な実装事業が発案されたため。
PLAN R4年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生推進人材や団体等の育成、支援、確保</li> <li>市民が参画した地方創生主要事業の検討・立案</li> <li>RESAS、ビッグデータ等の客観的データに基づく市政立案の支援</li> </ul>
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を ...)	①住民自治活動報告会を開催し、市内において住民主体の取り組みを行っている町会や市民団体の報告会を開催し、協働の地域づくりの横展開を図る。 ②外部からデジタル人材を活用し、スマートシティの推進やビッグデータに基づく有効な施策の企画・立案につなげる。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①昨年10月に住民自治活動報告会を開催し、有償ボランティアによる地域の支えあいに取り組む寺家町の事例や、交流の拡大から移住につながる菅池町の事例を紹介。 市内中学生や、地域おこし協力隊からの発表などもあり、さまざまな視点から本市の地域づくりに対する報告が行われ、約70人の市民がこれからの地域のあり方を模索した。小規模多機能自治の先進的取り組みを行っている南砺市の事例にも触れる機会となった。 ②昨年10月から6カ月間、金沢大学等と連携してデジタル人材1名を委嘱。スマートシティの推進やデータの活用などのテーマに沿って市職員との協業を図った。本市スマートシティの現状や課題を外部の目線で整理し本市にとってどのような取り組みが有効か提案。提案内容については、令和5年度策定予定の総合戦略に反映する予定である。また、データ分析し市内の「通いの場」の利用者の健康度が高いことを裏付ける分析も行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和5年度も引き続き、協働の地域づくりにつながる、住民向け報告会やアンケートの実施し、住民主体の地域づくりにつなげる。デジタル人材についても新たに登用し、外部からの知見も取り入れて、本市のデジタル化やスマートシティ推進を積極的に図っていく。